

平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 佐賀県

代表団体名 —

事業名称 疫学DB構築による地域糖尿病予防対策支援事業

1 事業実施概要

- ・ 情報通信技術を活用して健診データや診療データを収集し、疫学データベースを構築した。
- ・ 疫学データベースから作成した精密検査未受診者の名簿を市町に提供し、受診につなげることができた。
- ・ 大学の糖尿病専門医が疫学データの分析を行い、合併症発症を低減させるための診療支援メニューを作成した。
- ・ データを収集した医療機関等に対し、患者に応じた適切な診療支援メニューを提供し、治療の標準化を図る体制を整えた。

2 目標の進捗状況

(1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
参加患者数・対象患者数	システム試 行開始	—	—	—
糖尿病発症率の低下、 糖尿病性腎症進展率の 低下	前年度比 10%減	未計測	×	

(2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

【糖尿病発症率の低下、糖尿病性腎症進展率の低下】：×

理由：システム開発業者との委託契約締結が予定より遅れ、システム構築、システム試行及び本格稼働が年度末になり、目標達成に至らなかった。

3 事業による成果

(1) 事業による成果（アウトプット指標）

項目	成果指数	備考（成果指数の説明等）	調査時期
《報告様式1 指標取得シート（体系化された俯瞰指標）》			
医療機関の参加数	－	連携ネットワーク ID 一覧（医療機関）	平成 23 年 3 月
医療関連施設の参加数	－	連携ネットワーク ID 一覧（医療関連施設）	平成 23 年 3 月
参加医師数	－	連携ネットワークログイン ID 一覧（医師）	平成 23 年 3 月
参加コメディカル数	－	連携ネットワークログイン ID 一覧（コメディカル）	平成 23 年 3 月
参加行政数	1	連携ネットワークログイン ID 一覧（行政）	平成 23 年 3 月
検査の症例での効率利用数	－	データアクセス数（利用数別）ログ	平成 23 年 3 月
検査の施設間での効率利用数	－	データアクセス数（医療機関別）ログ	平成 23 年 3 月
検査の診療科種別での効率利用数	－	データアクセス数（利用数別）ログ	平成 23 年 3 月
糖尿病利用者登録数（患者）	－	連携ネットワークユーザ ID 一覧（患者）	平成 23 年 3 月
疫学 DB 登録者数（患者）	－	疫学データベース匿名化 ID 一覧	平成 23 年 3 月
疫学 DB 登録者数（患者）	－	疫学データベース匿名化データレコード数	平成 23 年 3 月
糖尿病診療支援利用件数（利用患者数）	－	連携ネットワークユーザ ID 一覧（患者）	平成 23 年 3 月
糖尿病診療支援利用件数（アクセス数）	－	クラウドデータアクセス数（患者別）ログ	平成 23 年 3 月
疫学 DB 利用件数（研究者）	1	疫学データベース利用者 ID 一覧	平成 23 年 3 月
疫学 DB 利用件数（アクセス数）	－	データアクセス数（疫学データベース）ログ	平成 23 年 3 月
SNS の患者利用者数	－	連携ネットワークログイン ID 一覧（SNS）	平成 23 年 3 月
医療機関への情報発信数（クラウドメニュー数）	19	クラウドメニュー一覧	平成 23 年 3 月
糖尿病メニューの配布率	－	連携ネットワーク ID 一覧（医療機関）	平成 23 年 3 月
疫学データ解析利用数	－	疫学データベースの参照数・ログ	平成 23 年 3 月
糖尿病食事療法メニュー	3	クラウドメニュー一覧	平成 23 年 3 月
糖尿病食事療法実施数	－	データアクセス数（利用数別）ログ	平成 23 年 3 月
糖尿病食事療法実施の利用頻度	－	データアクセス数（利用数別）ログ	平成 23 年 3 月
ICT メンテナンスに関係した施設数	－	管理者 ID 一覧（施設）	平成 23 年 3 月
ICT メンテナンスに関係した利用者数	－	データアクセスログ（管理メニューログ）	平成 23 年 3 月
創出雇用数	－	管理者 ID 一覧（アカウント）	平成 23 年 3 月
ICT 人材育成者数（画面作成スキル）	－	アカウント（作成権限）付与数	平成 23 年 3 月
セミナー開催数	－	セミナータイトル一覧	平成 23 年 3 月
セミナー開催参加者数	－	セミナー開催実績数	平成 23 年 3 月
《報告様式2 指標取得シート（個別に設定された指標）》			
疫学 DB データ数（アカウント）	－	疫学データベース匿名化 ID 一覧	平成 23 年 3 月
疫学 DB データ量	－	疫学データベース匿名化データレコード数	平成 23 年 3 月

疫学 DB データ属性量（施設数）	－	疫学データベース参加病院 ID 一覧	平成 23 年 3 月
疫学 DB 研究者属性数（専門医種類数）	－	疫学データベース利用者 ID 一覧	平成 23 年 3 月
疫学 DB 利用研究数（研究利用数）	－	データアクセス数（疫学データベース）ログ	平成 23 年 3 月
標準化メニュー提供数	19	クラウドメニュー一覧	平成 23 年 3 月
標準化メニュー利用数	－	クラウドメニューアクセスログ	平成 23 年 3 月
医療機関の参加数	－	連携ネットワーク ID 一覧（医療機関）	平成 23 年 3 月
医療関連施設の参加数	－	連携ネットワーク ID 一覧（医療関連施設）	平成 23 年 3 月
連携システム参加者数（医師）	－	連携ネットワークログイン ID 一覧（医師）	平成 23 年 3 月
連携システム参加者数（コメディカル）	－	連携ネットワークログイン ID 一覧（コメディカル）	平成 23 年 3 月
地域連携支援メニュー数	19	クラウドメニュー一覧	平成 23 年 3 月
地域連携支援利用数	－	クラウドメニューアクセスログ	平成 23 年 3 月
専門医監修標準メニュー数	47	クラウドメニュー一覧	平成 23 年 3 月
専門医監修標準メニュー利用数	－	クラウドメニューアクセスログ	平成 23 年 3 月
連携システム参加患者数	－	連携ネットワークユーザ ID 一覧（患者）	平成 23 年 3 月
SNS 利用患者数	－	連携ネットワークログイン ID 一覧（SNS）	平成 23 年 3 月
SNS 利用数（閲覧数）	－	SNS アクセスログ	平成 23 年 3 月
運営アカウント ID 数	1	管理者 ID 一覧	平成 23 年 3 月
運営アカウント利用数	－	データアクセスログ（管理メニューログ）	平成 23 年 3 月

(2) 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
《報告様式1 指標取得シート（体系化された俯瞰指標）》				
地域連携患者の地域連携医療施設の増加率	－	参加施設の ID 数を基に算出。調査日の参加施設 ID 数を比較して増加率を見る。システム設定状況から実施する	調査期間の前期と後期の指定日による参加数比較。調査結果に基づき算出する 【根拠式】 増加率=後期参加数÷前期参加数	平成23年3月
糖尿病患者に対する医療機関業務の専門サービスの効率化	－	糖尿病クラウドメニューの非専門医の診療率	調査期間の前期と後期で糖尿病メニューの利用数を調査する。調査結果に基づき算出する 【根拠式】 標準化率=糖尿病クラウド利用非糖尿病専門医利用数÷糖尿病クラウド利用数	平成23年3月
糖尿病患者に対する重複した検査の減少率	－	糖尿病クラウド地域連携パスで治療が管理されている患者数と管理されていない患者数との比率	調査期間の前期と後期で地域連携パスの適応患者数を調査する。 【根拠式】 重複検査減少率=後期地域連携パス適応数÷前期地域連携パス適応数	平成23年3月
糖尿病患者に対する効率的な通院計画による通院コストの削減	－	糖尿病クラウドを使った診療数の増加	調査期間の前期と後期で糖尿病クラウドの利用診療回数を調査する。 【根拠式】 コスト削減期待率=後期糖尿病クラウド利用診療数÷前期糖尿病クラウド利用診療数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、かかりつけ医活用による通院時間の短縮	－	糖尿病クラウドを使った診療数の増加	調査期間の前期と後期で糖尿病クラウドの利用診療回数を調査する。 【根拠式】 時間削減期待率=後期糖尿病クラウド利用診療数÷前期糖尿病クラウド利用診療数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、かかりつけ医活用による診察待ち時間の短縮	－	糖尿病クラウドを使った診療数の増加	調査期間の前期と後期で糖尿病クラウドの利用診療回数を調査する。 【根拠式】 待ち時間削減期待率=後期糖尿病クラウド利用診療数÷前期糖尿病クラウド利用	平成23年3月

			診療数	
糖尿病患者に対する、遠隔地での専門医不足の減少率	－	糖尿病クラウドメニューの非専門医医療施設が利用した率	調査期間の前期と後期で糖尿病メニューの利用数を調査する。調査結果に基づき算出する 【根拠式】 減少率=糖尿病クラウド利用非糖尿病専門医施設数÷糖尿病クラウド利用施設数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、地域完結型医療により、患者の主観的安心度向上率（実感）【単独指標】	－	アンケートによる採点	調査期間で患者アンケートを実施 【根拠式】 改善率=後期満足度の点数÷前期満足度の点数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、（1日当たり）画像診断処理件数の増加率	－	比較期間の一人の患者に対する画像検査数の比較。1日平均回数。	調査期間の前期と後期で実施された画像検査回数を比較する。1日平均に換算 【根拠式】 画像検査増加率=(後期検査回数÷期間日数)÷(前期検査回数÷期間日数)	平成23年3月
糖尿病患者に対する、（1日当たり）受診患者数の増加率	－	糖尿病クラウドを使った診療数の増加率（1日当たり）。平均	調査期間の前期と後期で実施された診察回数を比較する。1日平均に換算 【根拠式】 診察増加率=(後期診察回数÷期間日数)÷(前期診察回数÷期間日数)	平成23年3月
（糖尿病に関する1入院患者当たり）入院日数の短縮率	－	疫学データベースから入院日数を算出して、その種別の変化を算出する。前後は疫学データベースから抽出する	調査期間の前期と後期での入院期間を算出する。 【根拠式】 入院日数改善率=導入後期間での入院数÷導入前期間での入院数	平成23年3月
糖尿病に関する医療費の削減率	－	糖尿病性合併症の医療費比較	調査期間の前期と後期での入院保険請求額を算出する。 【根拠式】 糖尿病医療費削減率=導入後期間での入院費用÷導入前期間での入院費用	平成23年3月
健康診断受診率	－	行政の受診率を参照し調査する。次年度の調査にて増加を見る	調査期間で健診の受診数を算出する。 【根拠式】 健診受診改善率=前期の健診数÷後期の健診数	平成23年3月

糖尿病患者と予備群に対する健康指導回数の増加率	－	HbA1C が 5.8%以上の人の診療回数	調査期間の前期と後期で対象者(HbA1C>5.8)の患者の診療回数を比較 【根拠式】 指導対応率=後期対象者数÷前期対象者数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、実践者数、継続活動者数(健康指導を受けて) 【単独指標】	－	糖尿病クラウドシステムにて治療を行っている患者のリポート数(診療数)	調査期間の前期と後期で対象者(HbA1C>5.8)の患者の診療回数を比較 【根拠式】 リポート率=後期対象者の年間診察数÷前期対象者の年間診察数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、主観的健康度向上率(実感) 【単独指標】	－	糖尿病クラウドシステムにて治療を行っている患者に対するアンケート調査による満足度	調査期間で患者アンケートを実施 【根拠式】 改善率=後期満足度の点数÷前期満足度の点数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、客観的健康度向上率(検査数値の改善)	－	HbA1Cの値。前期と後期での改善率(患者平均)	調査期間の前期と後期で対象者(HbA1C)の平均値の比較 【根拠式】 血糖値改善率=後期HbA1cの平均値÷前期HbA1cの平均値	平成23年3月
新規糖尿病患者の発症率低下(1次予防)	－	新規に糖尿病ないし関係する疾患になった患者数	調査期間で病名に糖尿病がある患者数の比較 【根拠式】 糖尿病1次予防率=後期の糖尿病病名患者数÷前期の糖尿病病名患者数	平成23年3月
糖尿病患者に対する、重症化の減少率(2次予防)	－	糖尿病合併症での入院を調査。その件数を調査する。	調査期間で病名に糖尿病合併症がある患者数の比較 【根拠式】 糖尿病1次予防率=後糖尿病合併症病名患者数÷前糖尿病合併症病名患者数	平成23年3月
離職件数(育児由来)の減少率	－	糖尿病クラウド利用アカウントの数。前期と後期の対象期間での増減率	調査期間の前期従事数と後期従事者数の比較の調査。 【根拠式】 離職率=後期の従事人数÷前期の従事人数	平成23年3月

雇用件数、就業件数（人数）	－	コメディカルによる糖尿病クラウド利用数。	調査期間中のコメディカルが入力したクラウドメニュー件数。主たる入力者であり何かしら就業状況にあることになる 【根拠式】 就業予測件数=後期のコメディカルによるクラウド入力件数	平成 23 年 3 月
雇用者・就労者数の所得増加率	－	講習会や個別説明の後に、メール等でアンケートを実施する。	調査期間で患者アンケートを実施 【根拠式】 改善率=後期満足度の点数÷前期満足度の点数	平成 23 年 3 月
主観的理解度向上率（実感） 【単独指標】	－	講習会や個別説明の後に、メール等でアンケートを実施する。	調査期間で患者アンケートを実施 【根拠式】 改善率=後期満足度の点数÷前期満足度の点数	平成 23 年 3 月
客観的理解度向上率（関連事業への従事）	－	コメディカルによる糖尿病クラウド閲覧数。	調査期間中のコメディカルが閲覧(参照)したクラウドメニュー件数。 【根拠式】 従事予測件数=後期のコメディカルによるクラウド参照件数÷前期コメディカルによるクラウド参照件数	平成 23 年 3 月
《報告様式 2 指標取得シート（個別に設定された指標）》				
医療費の削減額	－	糖尿病性合併症の医療費比較	調査期間の前期と後期での入院保険請求額を算出する。 【根拠式】 糖尿病医療費削減率=導入後期間での入院費用÷導入前期間での入院費用	平成 23 年 3 月
健診受診率	－	行政の受診率を参照し調査する。次年度の調査にて増加を見る	調査期間で健診の受診数を算出する。 【根拠式】 健診受診改善率=前期の健診数÷後期の健診数	平成 23 年 3 月
健診受診指導回数	－	HbA1C が 5.8%以上の人の診療回数	調査期間の前期と後期で対象者(HbA1C>5.8)の患者の診療回数を比較 【根拠式】 指導対応率=後期対象者数÷前期対象者数	平成 23 年 3 月
糖尿病患者発症率	－	新規に糖尿病ないし関係する疾患になった患者数	調査期間で病名に糖尿病がある患者数の比較 【根拠式】	平成 23 年 3 月

			糖尿病1次予防率=後期の糖尿病病名患者数÷前期の糖尿病病名患者数	
透析導入率	—	糖尿病合併症での透析治療を調査。その件数を調査する。	調査期間の前期の透析患者数と後期の患者数を比較する。【根拠式】透析導入率=後期透析ID数÷前期透析ID数	平成23年3月
若年層データ解析による小児腎疾患予備改善件数【単独指標】	—	糖尿病合併症での小児腎症疾患治療を調査。その件数を調査する。	調査期間の前期の小児腎症疾患患者数と後期の患者数を比較する。 【根拠式】 小児腎症疾患罹患率=後期小児腎症疾患ID数÷前期小児腎症疾患ID数	平成23年3月
情報受信者数	—	糖尿病クラウドを使った診療数の増加	調査期間の前期と後期で糖尿病クラウドの利用診療回数を調査する。 【根拠式】 コスト削減期待率=後期糖尿病クラウド利用診療数÷前期糖尿病クラウド利用診療数	平成23年3月
専門医による標準化率【単独指標】	—	糖尿病クラウドメニューの非専門医の診療率	調査期間の前期と後期で糖尿病メニューの利用数を調査する。調査結果に基づき算出する 【根拠式】 標準化率=糖尿病クラウド利用非糖尿病専門医利用数÷糖尿病クラウド利用数	平成23年3月
疫学研究数【単独指標】	—	疫学データベースの検索数。アクセスログから算出する。	調査期間の後期で、疫学データベースに検索要求のあった件数。 【根拠式】 疫学研究数=疫学データベース検索要求延べ数	平成23年3月
疫学研究の症例還元数【単独指標】	—	疫学研究をした研究者の監修によって、作成されたクラウドメニュー数。	調査期間の後期で、疫学データベースに検索要求をした研究者による作成ないし監修のあったクラウドメニュー数。 【根拠式】 研究成果クラウドメニュー数=疫学データベースに検索要求をした研究者による作成ないし監修のあったクラウドメニュー数	平成23年3月

慢性期疾患患者等の重症化 (糖尿病性腎症進展など) の 減少率	—	糖尿病クラウドにて、期間ごとの対象者の HbA1C 検査値の数値改善率(平均値の差分)。	調査期間の前期と後期のそれぞれ対象患者(糖尿病腎症)の HbA1 c の値の比較。改善した人数と悪化した人数を算出。また平均的な数値の比較 【根拠式】 改善人数率=後期の改善人数÷前期の改善人数 悪化人数率=後期の悪化人数÷前期の悪化人数 平均 HbA1c 値=後期の平均値÷前期の平均値	平成 23 年 3 月
慢性期疾患患者等の疾患罹患率(糖尿病合併症など) の 減少率	—	糖尿病クラウドにて、期間ごとの対象者の HbA1C 検査値の数値改善率(平均値の差分)。	調査期間の前期と後期のそれぞれ対象患者(糖尿病性合併症)の HbA1 c の値の比較。改善した人数と悪化した人数を算出。また平均的な数値の比較 【根拠式】 改善人数率=後期の改善人数÷前期の改善人数 悪化人数率=後期の悪化人数÷前期の悪化人数 平均 HbA1c 値=後期の平均値÷前期の平均値	平成 23 年 3 月
安定期治療期間(安定期治療期間患者数)	—	糖尿病クラウドにて、入院診療がない期間の平均を算出する	調査期間の前後のそれぞれで、入院していない期間を算出する。ただし教育入院や予定の検査入院は含まない。 【根拠式】 非入院期間平均=非入院日数全体÷糖尿病患者数	平成 23 年 3 月
医療機関連携件数【単独指標】	—	一人の患者が診察を受けた医療機関数の平均	調査期間の中で、一人の患者が受信した医療機関の数の平均 【根拠数】 医療機関連携件数=受診施設数÷患者数	平成 23 年 3 月
ケアカンファレンス回数【単独指標】	—	医療機関が連携した回数。集団教育の実施回数とする	調査期間で集団教育が実施された数。集団食事療法指導等 【根拠式】	平成 23 年 3 月

			・ケアカンファレンス回数=集団教育数	
患者1人当りに対応可能な医療関係者数	—	糖尿病クラウドの医療従事者のアカウント数	調査期間で入力が許されたアカウント数 【根拠式】 患者1人当りに対応可能な医療関係者数=入力が許された利用アカウント数	平成23年3月
医療体制に対する患者の主観的満足度【単独指標】	—	アンケートによる集計値	調査期間で患者アンケートを実施 【根拠式】 改善率=後期満足度の点数÷前期満足度の点数	平成23年3月
ICT人材の増加【単独指標】 (育成：約10名、活用：約10名)	—	地域連携システムの利用における、システム管理アカウントの数	育成：本事業の構築を推進する役割を担う利用者 活用：本事業の活用を推進する役割を担う利用者	平成23年3月

4 システム設計書

別添2のとおり。

＜システム運用結果＞

1 システム運用で得られた成果

特になし

2 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

データ所有者における提供問題（健診データ）の調整に進捗の遅れがあったが、地域の課題を可視化し事業の必要性について討議を重ねて、提供に対して最終的な合意を得られた。

解決にあたり、地元の医師会の賛同を得られ、地域で同一の問題を共有できたことが大きい。

反面、地域医療における診療所には電子化されていない情報が多く、医師等の IT 化の必要性の疑念や IT リテラシー問題も存在する。

これは各医療施設での IT 医療資源の格差問題とも関係していると考えられるが、普及においては、これら IT 化の啓発活動や IT リテラシー教育も重要課題と思われる。

解決方法としては、簡易的な操作で活用できるシステムを提供することが重要と考え、システム設計に細心を払う予定である。

また、研修会等でフォローアップする予定である。

3 自律的・継続的運営の見込み

本事業は、産業界を活用したスキームを前提にしている。

クラウド技術を用いて、本事業システムを活用して新たな機能を提供する産業界の提案を前向きに受け入れ、事業を継続する予定である。

資金面は、通常各利用機関での医療提供業務との連携で、専従の人的費用を抑え、また産業界の参入による IT 環境利用費の抑制を見込んでいる。

更に安定したサービスの提供後は、順次に新たなサービスを提供・拡充することで、将来的には利用者（病院等）からの利用料の増加を見込んでいる。

実施体制においては、県と大学が共同して運用する。

方針等は協議会により討議し決定しつつ、主に医療システムであることから大学がシステム運営を行う。

また、IT 環境のハードウェア面の運用にはクラウド利用により産業界を活用する。

評価においては佐賀大学の糖尿病や腎臓、循環器内科、眼科の専門医によるチームで行う。

4 今後の展開方針

糖尿病を中心とした予防事業を展開し、今後は心血管疾患や佐賀県において発症率が高い肝炎・肝がんの予防事業に展開する予定である。

それに伴い、各専門医に対して糖尿病支援事業の目的や機能を既に説明を開始している。

5 その他

特になし

<人材育成状況説明書>

①申請主体における I C T人材の育成・活用内容

1 I C T人材の育成人数

1名

2 I C T人材の育成方法

佐賀大学医学部附属病院医療情報部講師による個別指導

3 1で育成等した I C T人材の活用人数

1名

4 I C T人材の活用方法

「糖尿病医療連携推進事業」の実施やその他、医療分野における ICT の活用に関する調査・検討システムの構築、運用、管理、調整 等

5 次年度以降の I C T人材の育成・活用内容（予定）

本年度育成した1名は、現地機関における ICT の活用等に従事させ、新たに1名の医療分野における ICT 人材を育成する。

②事業運営主体における I C T人材の育成・活用内容

1 I C T人材の育成人数

佐賀大学医学部附属病院 糖尿病専門医による、本事業に携わる受講者（医師、看護師、保健士、栄養士、行政職員）に対し、本事業概要と I C T利用意義について講演し、事業本格展開を見越した I C T人材の育成の基礎作りを実施した。

2 I C T人材の育成方法

I C T利用技術の習得だけではなく、糖尿病専門医等による佐賀県における糖尿病医療連携に関する実態および目指すべき姿を、講演等を通じ習得させる。

3 1で育成等したI C T人材の活用人数

開催期日	会議名等	内容	対象	参加人数
H22.11.5	日本医療マネジメント学会第9回九州・山口連合大会	クラウド型医療情報基盤による糖尿病地域連携	医師・看護師	200
H22.11.11	第6回連携医療機関懇親会	糖尿病と地域医療連携	医師・看護師・栄養士	200
H23.2.2	第22年度保健福祉事務所及び市町村・健康づくり事業者研修会	糖尿病の最新情報と対策推進のための地域連携	栄養士・保健士・看護師・行政	80
H23.2.16	佐賀県糖尿病対策推進会議	糖尿病地域連携バスの作成	医師	20
H23.2.23	佐賀中部糖尿病対策職域連携研修会	事業所における糖尿病対策と地域連携について	事業者・保健婦・医師・看護師	80
H23.2.24	病診連携の会	糖尿病領域における医療連携	医師	30
H23.3.8	第5回佐賀SVD Conference	糖尿病血管合併症の進展予防	医師	20

4 I C T人材の活用方法

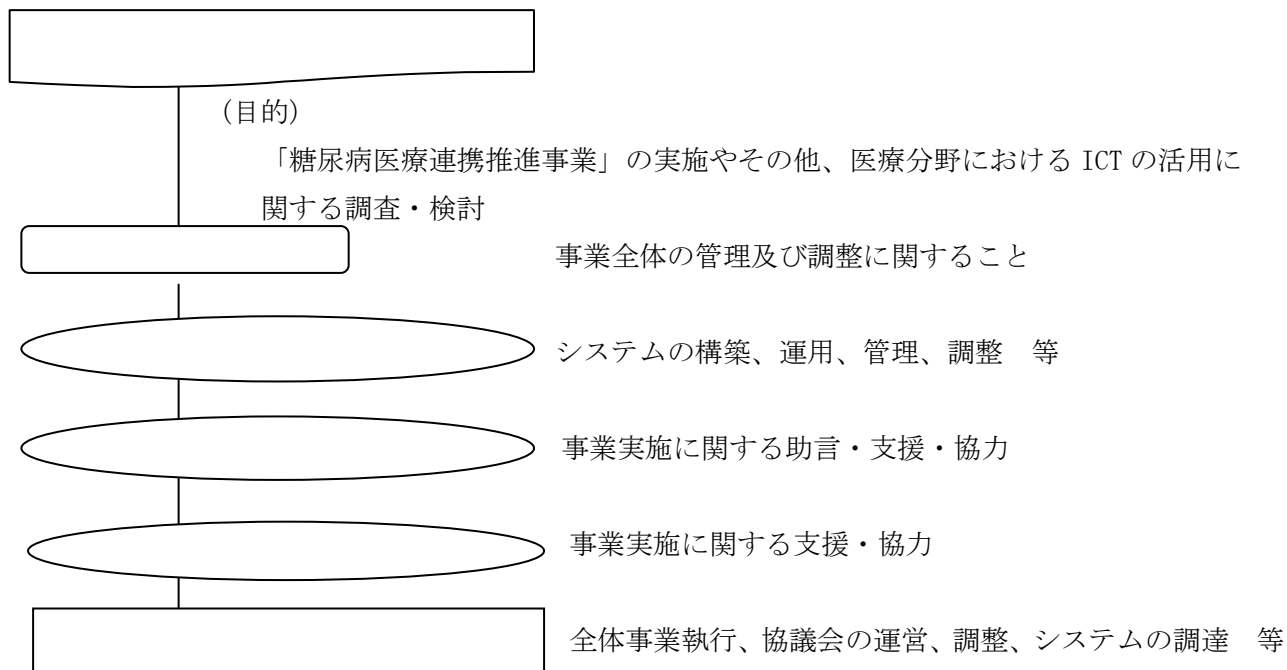
本事業の運用には、携わる医療従事者に対するI C T基盤の利活用について継続的な講演を行い利用層確保すると共に、I C T人材の育成と確保は重要課題と認識し、安定したサービス提供にも重要な要素となるため、今後、クラウド保守業務・クラウドメニュー開発業務をテーマに、更なるI C T人材育成を行う。

5 次年度以降のI C T人材の育成・活用内容（予定）

クラウドメニュー利用による糖尿病食事療法管理栄養士、糖尿病運動療法看護師等の人材の育成を目的に、適宜研修会を計画する。これにて育成された人材をキーマンとして、クラウドメニューの利用拡大の利活用に期待できる。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	佐賀県糖尿病医療連携推進協議会	事業の実施に関すること
2	プロジェクトリーダー	事業全体の管理及び調整に関すること
3	佐賀大学医学部附属病院	システムの構築、運用、管理、調整 等に関すること
4	佐賀県医師会	事業実施の助言・支援・協力に関すること
5	佐賀市保健福祉部 (保険年金課)	事業実施の支援・協力に関すること
6	佐賀県（統括本部・健康福祉本部）	全体事業執行、協議会の運営、調整、システムの調達 等に関すること

事業実施進行表

実施内容	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H23 1 月	2 月	3 月
協議会等設立・ 準備会合				→				
協議会等開催					△ (12. 10)			△ (3. 28)
システム構成の 検討・決定			→					
システム構築に 係る競争入札				→	→	(契約締結)		
システム設計						→	→	→
システム稼働							→	→
報告書作成								→

注 1) 具体的な実施内容を記入のこと

その他